

オウム病患者の発生について

5月14日、土浦保健所管内の医療機関から、オウム病患者の発生届がありました。県内でオウム病の発生は2019年4月以来、約6年ぶりです。患者は、既に軽快しています。

オウム病は、インコ、オウム、ハト等の糞に含まれた菌を吸い込んだり、口移しでエサを与えたりすることによって感染しますので、飼育している鳥との過剰な濃厚接触は避け、世話の後は手洗い、うがいをするほか、野生の鳥とのむやみな接触も避けてください。

- 1 患者の概要： 60歳代 男性
- 2 推定感染地域： 茨城県内
- 3 症 状： 発熱
- 4 経 過 等：
 - 3／23（日） 発熱出現
 - 3／25（火） 近医受診し、インフルエンザ及びコロナウイルスは陰性を確認
 - 3／28（金） 解熱せず近医を再受診
近医から別の医療機関へ救急搬送され、入院
 - 4／ 5（土） 症状軽快し、退院
 - 5／14（水） 民間検査機関による検査結果を基に、医療機関から土浦保健所に発生届

プライバシー保護の観点から、患者及び患者家族等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

○ オウム病とは

原 因：オウム病クラミジア（病原細菌）

潜伏期間：1～2週間

症 状：初期症状として悪寒を伴う高熱、頭痛、全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛、関節痛、呼吸器症状などがみられる。

軽い場合は風邪程度の症状であるが、高齢者などでは重症になりやすい。

重症になると、呼吸困難、意識障害などがみられ診断が遅れると死亡する場合もある。

治 療：抗菌剤投与

感染経路：インコ、オウム、ハト等の糞に含まれた菌を吸い込んだり、口移しでエサを与えたりすることによって感染する。

感染予防：鳥との接触を避け、むやみに触らない。

鳥を飼うときは、ケージ内の羽や糞をこまめに掃除し、世話の後は手洗い、うがいをする。鳥が弱った時や排菌が疑われるときは、獣医の診察を受ける。

感染症法：四類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出が必要）

【参考】オウム病患者発生状況

（単位：人）

年 次	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年※
全 国	13	7	9	12	8	4	3
茨城県	1	0	0	0	0	0	1

※全国は5月4日までの報告件数（速報値）

※本県は今回の事例を含む。